

結合を僕なりに完成し得るのでせう。あなたもまた。そしてあなた自身が創作する時、僕も伴侶的理解者になります。本は出版までまだ困難は多いし、実現はなほ現実的と云へないが、また実現しても或ひは身辺の異常を招くかも知れないので、二校が終つたら、あなたに初校の校正刷を送りませう。それでまづ読んで下さい。原稿は大分汚くなり読み辛くなつてゐますから。そして今度の本のデジテーションは、処女作にふさはしく、妻たるあなたと、亡き二人の友、中島、永島両君とへささげるつもりです。但し之は本には書かない。本には個人的なこと一切を省略する。ただ、その心で。この三人が現在の僕をつくり上げてくれた最愛の人々だから。

階下であなたの手紙を□んでしまつて、ふうちゃんの小包をあげ、リデル・ハートをパラ／＼見てみると、森井篤子さんが訪ねて来ました。まだ身体が余り強くなささうで（五年間腹膜炎で病臥したのださうです）、何とかと云ふ出版屋にとつめてゐるのださうです。「何から話していいやら」とつもる話（中島君の）をしました。あなたへいつかツル子さんの紹介で就職の話で来た高須セツ子と云ふ人は、森井さんの友達でもあり、中島君の友達でもあつたのださうです。それも初め田中君を通じて。所が、その後田中夫妻をのりこえて人間的にも、中島君との交はりの点でも進んだために、田中夫妻に憎まれ、近頃では殆ど会はないのださうです。そのセツ子と云ふ人も、女のインテリまたはインテリ一般の通弊としての、「勉強出来る仕事」を求めてゐたらしいが、いろんな体験で漸く仕事は仕事、勉強は勉強としてやる外ない現実を認識するに到り、今はどこかの工場の厚生部とかで、ま／＼つくるになつて働いてゐるさうです。

こんな話をきくと、実はあなたのえらさを思ひます。その点はあなたはうぬぼれていい。すなはち「勉強出来る仕事」と云ふ風な甘い観念的な幻想をもたず、現実の中で仕事を心得て、その仕事の現実から勉強の条件を作り出し、勉強して来たこと、しかも女の子たちと一緒に、そして或ひは恐らく若干の女の子達に人生を開眼したこと。

調査会にとつめてゐる女の子達の甘さ、また高須セツ子と云ふ人があの頃もつてゐた甘さ。それらはすべて、現実への観念的態度、たたかひとるのではなく、与へられるのを待つ態度なのです。村瀬君や西海君にもそれがある。楽な仕事、いい仕事、と云ふのは、現実には甘やかしてほしいと云ふ態度です。僕の今の恵まれた仕事も、実はたたかひとつたのではなく、偶然与へられたことだが、しかし最初から決して甘い観念を以ては入つたのではない。むしろ上田君に充分きかされてゐたから、雑用をさせられるつもりで、ただ生活のために就職したのでした。丁度あなたが農林や鉄工聯へは入り、僕がかつて都の社会部へは入つたやうに。

それはとにかく、森井さんも「中島さんほど女の心のよくわかつてくれた男の人はゐない」としみ／＼云つたので、

「僕のフラウもさう云ふから、それは本当なんでせう。殊に僕がフラウの気持を理解出来ないでゐる時にさう云ふのだから」と相づちうちました。だが森井さんと中島君の話をしながら僕感じたことは、さうした女の人の心理の理解、または一般的人間関係の微妙なあやの感受と理解に於ての中島君のすぐれた点を充分受け入れ、また彼が人生に対してもつた誠実と熱情、科学や芸術に対する深い洞察と理解、未完ながら独創的な探究を、敬愛を以て想ふことに人後に落ちないつもりだが、他面、中島君の歴史的制約をのりこえることが、彼への真の愛情の発展でないかと云ふことです。彼が僕とのジエネレイションの相違で説明したあの差こそ、実は僕が彼をのりこえたことだったと僕自身で感じてゐるのです。

人あるひは異議をとなへるでせうが、彼が漱石やドストエフスキーを、またはさうしたものへの親近性を、徹底的に歴史的に批判出来なかつた点、「過去の重圧」と云ふもの、「人間の魂の罪」と云ふドストエフスキー的觀念を歴史的に批判し切れず、そのままに受け入れたこと、之が彼の制約だつたと思ふのです。結局歴史の理解の不足の問題です。彼があれほど家族制度に苦しみ、それと全身的にたたかひ、誠実にたたかひぬかうとしたに拘らず、個別と普遍との混同（家族制度と云ふものと、自分の現在の両親との觀念的混同）から脱し得なかつたこと、これが漱石やドストエフスキーの世界の本質を理解させなかつた限界なのでせう。それはのりこえねばならない、だがそれをのりこえるためには、僕達を経て来た程度以上の生活体験が必要なのかも知れない。或ひは僕のやうな或る程度粗雑な神経が必要なのかも知れない。丁度スポーツマンや戦士が、余りセン細で微妙な感受性や神経をもたない方がいいやうに。

この点は森井さんもよくわかつてゐなさうでした。恐らく彼女の彼に対する結びつき的情緒的要素が、彼をのりこえることを妨げるのかも知れない。僕は中島君と云ふ個別を自分の普遍への結合の一つの媒介にすべきで、そのことこそ現実の彼の個性の真の敬愛を意味するのだと思ふけれど、どうかしら。

二時間話して、五時頃彼女は、トマトをおみやげに帰りました。彼女はお茶をくれました。之は僕が彼女にお茶も出さなかつた（出すことを忘れたのでなく、火を起すのが大変だから）からではありません。その中僕達のことをききたいと云つてゐました。あなたがいやなら云はないでおきませう。

夕食をおそく、ジャガ、モロコシ、フクシンヅケですませました。

あなたは僕があなたの身体や健康を無視した、生命をまで軽視したと云ふ風に思つて来たらしいが、それは、僕のエゴイステイクな態度に責めの一半ありとは云へ、情ないことです。僕があなたを知つて以来、あの文通の頃以來、いつで

もどんなにあなたの身体を心配したことか。当時はあなたをいばまだ見も知らぬと云つてよかつた頃だったが、あなたの毎日のくたびれを自分の身に感じ、嗜眠性脳炎などが流行した時、それにかからなければいいかと真剣に心配したことを覚えてる、その後、あなたが約束の時間に来なかつたり、また結婚後、無断で遅くなつたり、近くは、仕事の帰りがおくれたり（内藤嬢の家でおそくなつたり）、さう云ふ時にどんなにやきもき心配したことか。その心配を、若しものことのあつた時のいろんな煩はしいことを嫌ふ、僕のエゴイズムだとあなたは云ひ切れるでせうか。この間もいろんな話をして、何かのことから、「僕は空襲の危険のない時にでも、フラウの帰りがおそいと、何か交通事故でもあつたのぢやないか、自動車にひかれたりしたんぢやないかと心配して、何にも出来なくなる」と云つたら皆に笑はれたけれど、之は真情です。疎開するまでの僕の一番の心配は空襲であなたがケガしたり、万一のことあつた場合のこと、あなたのいのちは僕のより大切なんです。それはいつも云ふやうに、あなたの中で生きぬかうと思つてゐるから。之も僕のエゴイズムだと云ふなら、仕方がないけれど。とまれ、その意味では、僕はいつでも、あなたにとつて僕が必要なものもはるかに強く切実に僕にとつてあなたが必要なのだと感じ、その感じで生きて来たつもりです。あなたは僕のおゆる考へや感じかたに、ただエゴイズムのいろんなあらはれや形ばかりを読みとらうとするかも知れないが、僕とあなたとを一体に見るなら、エゴイズムでない感じかたや考へはあり得なくなりはしないでせうか。あなたに害のあるエゴイズムなら批難されて仕方がないが、あなたに害のないエゴイズムなら許してくれてもいいと思ふが、甘いかしら。エゴイズムかエゴイズムでないかは、やはりそのエゴが、即ち個別的自我が、普遍的自我即ち夫婦体でも共同体でも人類なり歴史なりでも、さう云ふ普遍と結びついてゐないかあるかで判断すべきです。

大分口うるさい弁解みたいになつたけれど、我々の最近の行きちがひの掘り下げとしては、この程度で一応わかり合へたのではないでせうか。で、あと必要なことは、常にお互ひを信頼し、お互ひに相手に必要であることを自信を以て考へ、その信頼と自信とに於て勉強し、行きぬいて行く、いはば現実とたたかつて行くこと、普遍へ結合して行くこと、そして若し健康がそれを妨げてゐるなら、健康を恢復すること。

僕は此の頃、人が自分のことを何と云つてゐるか、に余り囚はれなくなつた。それやほめてくれてゐればうれしいし、「問題にして」⁽¹⁾ゐてくれればうれしいし、評判もききたくはあるけれど、他の半面どんな悪口を云はれようと、あはて⁽²⁾たりとりみだしたり感情をかきたてられたりしなくなつた。また人の自分について何と思つてゐるかをしつこく知りたがらなくなつた。それだけ自信が出て来たのでせう。この自信は、第一にあなたとの全生活からかち得たのであり、第

二に今度の労作からかち得、第三に之からの仕事の抱負から得てゐるのです。あなたはまだ、人のあなたについての片言セキ句に囚はれるところが残つてゐるやうに思ふが、若しさうだつたら、それを克服して生活に自信をもつて下さい。だが僕は、自分の仕事だけでなく自分の人間としての資質、認識力について、伴侶的理解者としてのあなたから、客観的なしかも同情のある判断なり批判なりを時々ほしい。オザナリでないホメ言葉と、感情的でない批難とを。僕が之まで一々あなたに「口返答」して、あなたの批難を反撥して来たけれど、結局どんなにあなたの意見を汲みとり、あなたの感じかたに影響されて来たか、あなたは観察出来なかつたでせうか。では今夜は長い手紙をこの辺でおしまいにし、仕事にかかりませう。明日また書きます。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年八月一四日付け）

別便で代用ココアとふきん、ナプキンを送りました。ふきんは、勿論、お茶碗やお皿をふくのに使つて下さい。ナプキンは普通に使はず、何かいれたお皿やお丼の上に、ハエやごみのつかぬためにかぶせるのに使つて下さい。今日はお祖母さんの新盆で坊さんが来るでせう。十三日の月曜日は専らお裁縫とお掃除その他で働きました。和歌山、有田から利ちゃんの手紙をくれました。廿日頃まで和歌山市にゐる相ですね。寛さんも帰つたらいいですね。此の代用ココア、お気に召したら、まだありますから送つてさしあげます。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一五日の記）※

八月十五日

昨日今日、お祖母さんの新盆で来客ばかり。一日お茶をいれたり出したり、洗つたりふいたり、あきくくしました。組合の女の人たちは専ら神秘的な話をしてゐます。みこに不動さまが乗り移つて大きな声でおさとしをしたとか、新盆の家の最初の夜は仏壇の部屋で賑やかな人声がする、遠い先祖が先達でやつて来るのだ、とか。飯田もさうであつた様ですが、鼎はもつと激しい様に見えます。年とつた女ばかりでなく、20才位の若い娘もみこの処へ一ヶ月に一度位の割合で誘ひ合つて行つて、おさとしとか乗り移りの実演を信じにゆきます。不安な今の社会情勢から、さう云ふものへの信

仰の形で、しつかりした頼りどころを求める心理でせうか。お母さんは大の神秘愛好家で、切りもなく、さう云ふ話を聞いたりしたり、今聞いたばかりの話を来る客毎にまくし立ててゐます。相手が若い学生であらうと中年の事務家であらうと差別なしに。お父さんも近頃は前の様なからかひ態度でなしに、どつちかと云へば信じたい風をみせて、聞いたりしてゐます。何も彼も不合理の世の中で、人々は不合理を敬仰^⑩してゐるかに見える位です。押しつけられた不合理を不当に思ふどころか、自分でも自分の作つたものの如くに消化して唯一の看板に掲げて、見せあつてゐるのです。坊さんが来ました。長くゐると思つたら、お茶を一杯のんだだけで、まだあといくつもまはらねばならぬと云つて、お経はたつた二分で済みました。お坊様たちの方が宗教を事務化してゐる―最も昔から坊さんたちが一番、宗教の本質を知つてゐたんですね。

マックス・フアランドのアメリカ発展史、少々よみました。アダムズよりもフアランドの方がもつとブルジョア的ではありませんか。食ひ足りないところがアダムズよりも大い様です。併しフアランドはフアランド、アダムズはアダムズで、それ／＼私には中々のごち走になる部分があります。あれこれと読む程、興味が出て来ます。基本になるものはあなたのアメリカ史(二冊とも)にして、エピソードや部分／＼の説明(条令の解剖など)は、もつぱらアダムズとフアランドから吸収してゐます。油が乗つて来た頃、きまつて何時も中断されます。うまくゆかぬものと嘆きましたが、どうもよく考へると、私の場合はいの結果を生んでゐます。自分流のフインキを作りすぎて主観的になり出すと、中断されて其の熱をさまされてゐると云ふ形もありさうです。独立戦争は前後共、相当精しくやつたつもりで、ある程度の下構^⑪らへが出来ましたから、あなたの芦野さんへの独立戦争は、今までよりは理解し易いと思はれ、早く見度いと思ひます。

御忠告により、新聞は昼食後二時までゆつくりしていねいに見て、日記の備考欄へ二、三、ピックアップする事に致しました。

前、五月の終りのあなたの手紙で、『学生と歴史』の羽仁氏の論文、セニョーボスの『歴史学入門』、史学研究の中の『東洋に於ける資本主義の発達』を是非一読せよ、と書いてあつたでせう。羽仁氏の歴史の概念からすこしづつ(一日廿分位)、そのための時間を作りました。小此木さんの西洋史も非常に面白く読みました。そして生いきにも、この程度のなら私にも書けさうだ、なんて気を起しました。実際書いたら、とても書けるものではありませんが、―そんな気を起さず位わかり易く書いてありました。あれもこれも勉強したく、あなたのまね見たいではありませんが、下宿住ひ

でもして、誰に気兼ねも遠慮もなく、疲れるまで勉強出来たらなアと思ふ事しばしば。一人で住み度い気が起ります。併し私の場合は知識の積み重ねであつてはいけないとのこと（実際の生活との有機的な関聯に於て、読書と思索と経験との）ですから、多いにさう云ふ風に考へられる様にやつてみませう。そう云はれて見ると、毎日お母さん、お父さんとの関係でも、さうたうよく考へてみると、それ丈の小さい事柄でなくて、一般的な普遍的な事柄に通じるものがある事を、感じさせられます。此の小さい家の中の対人関係だけでも誠実に対処し、考へ、自分の考へ方対し方を批判出来、誠実に行動出来る様になれたらと思ひます。私に一番ないものは誠実さであると思ひます。自分にもあなたにも誰にも、まづ私は誠実さ一がありません。それなのに人に人間らしい生活態度を求めてゐるのは全く変なものだと感じてゐます。此の前に書いたかも知れませんが、フランクリンの自叙伝をつい此の前、独立戦争のためによみましたところ、彼の自己のきたへ方には得るところが多いにありました。あの形を一応まねして見るのもわるくないなと思ひました。

ここまで書いて食事にはゆきました。今日も又来客、来客、何も出さずお茶菓子はないし、お湯が（お茶の）まに合はぬ位に客が来ます。どれもこれも長つちり。一番長い人はおひる前から来て、夕食を食べてゆく人もあります。家中大混雑、早苗はなく。汗まみれで、夏に私がよくして、あなたに嫌はれた髪（文中に挿入された髪形の簡単なスケッチは省略―編者注）こんな頭にして、顔は蒼ざめ、目はへこみ、と云つたあんばいです。でもまあ、一生懸命任務をつくしました。家中人が来てごたくと、不思議にお母さんもお父さんもふうちゃんも気が短くなつて来ます。

地代論はまだほんの少々ですが、私にはローザの経済史より解り易い様に思はれます。経済史はゴタ／＼してゐて、どうもまとまりにくい。モルガンを前読みかけた時、曲りなりにもよみ通せばよかつた。一応ローザが終つたら、其の間をモルガンにしようと思ひます。

毎日何となく物淋しく、物足りなく、充されぬまゝに過ぎてゆきます。ひるまは目の前の雑用や勉強に追はれますが、夜、床にはいつて、今まで勉強してゐて頭がゴーツと鳴つてゐる時は、すぐにねむれず暗い中で目を覚してゐると、芯から淋しい気になります。そして空襲や徴兵であなたが死なない様に、何かに祈り度くなつて来ます。若しもさう云ふ事が出来るものなら、私のいのちをちぢめても、あなたのいのちを守つて下さい、そして仕事を完成させて下さい、と祈りたくなつて来ます。

今朝のラジオで、食糧封鎖をすると云ふ計画について放送してゐましたね。そこまでゆくでせうか。

小使さん夫妻がゐなくなると、こんろの火はどうするの？ そんなに毎日ポテトと茄子では身体が持つかしら。其のう

ち椎茸とうどんを、お母さんからすこし貰つて送りますから、うどんを作つておあがり下さい。かぼちやは茹でるよりむす方がうんと甘味が出ます。こちらもおひるはもつぱらむしかぼちやです。かぼちやは十二月位まで持ちますから、すこし買つておいたらどうでせう。
では今日はこれでさようなら。二階にちく音器もレコードももつて来ました。疲れた時一、二枚きくのはとても楽しみです。

※後掲する八月一八日の手紙と一緒に、八月一八日付けの封筒（消印は一九日）に入っていたものだが、一八日の手紙とは分離して、ここに掲載した。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一六日の記・消印）

八月十六日朝九時卅分に、あなたの手紙（十二日、十三日分）うけとりました。前便は八、九の両日分、すると十日と十一日のが来てゐない。此の前、粉と林ごとふくらし粉とシーツ送つたのは着いてゐないのかしら。其の後に送つた本の事は書いてあるのに。

今実は勉強時間で、あなたのアメリカ史を十一時まで読む筈の時ですが、一紙紙にしませう。時間割は中々完全に出来ません。昨日の分が今日へのこりと云ふ風に追はれます。理由は始んど家事的用事のためで、其の用事も実質的にはたいた事は無いものですが、事務的に急いで片つけるといけない事はばかり。即ち来客の接たい、お茶出しが多いのです。其の取られた時間を夜にまはしくするので、朝ねむい。こちらに来た当時、五時には起きられたのに、最近は六時半にならなくて目がさめない。ひるねは勿体なくて出来ない。困りました。どうもまだ机に向ふ時間こそ勉強出来る、と思ふ観念が抜けないのです。それにしても現実の話がすぐに勉強を必要とするのですから、どうしても机に向つて読んだり調べたりする時間が足りない事は、嘆きの種となります。例へば『怒りの葡萄』の話が出て、ローズベルトのニューディール政策と、あの話の中の貧困農民とがどう聯関あるか一寸もわかりませんからね。何時になつても何かが嘆きの種はつきぬものらしい。

十二日に始めて味噌汁を食べたの。おみそが此の暑さで長く使はずにおくと、悪くならないかしら。お米が残つてしま

ふと、虫もつくでせうに。粉と代へるとか何とか方法ないの？ お菓子屋さんなら粉と交換してくれないかしら。ふうちゃんもお母さんも恢復しました。ふうちゃんのは体質も半分あるでせうが、毎日／＼のひるね、朝ねは半分は怠け心もある様です。怠け心と云つてはひどいが、矢張り生活にはつきりした目当を持つてゐない事も影響してゐる様に見える。お母さんは何かと云ふと、ふうちゃんのねる事を口汚く批難してゐるから、始めはお母さんの同情のなさだと思つてゐた。お母さんは自分のひるねは正当であるが、ふうちゃんのひるねはだらしがない、と思つてゐる事はたしかです。ふうちゃんもねるなら部屋の中位片つけて、すみの方へきちんとねる様にすればよいのに、ちらかしたまゝゴロリ／＼（又あの部屋は誰にもよく見える）だから、お母さんは怒るのでせうね。

お母さん対ふうちゃんの口喧嘩は、毎日五、六回は繰り返されます。どちらも自分の主観を押し通す、お母さん対ふうちゃんの争は、お母さんの一般的凡ゆる不満に点火する事になつて、大いにあたりの者は困惑する事しばしば／＼です。

二人を見てゐると、時にはあなたと私の対立を思ひ出します。お母さんの強引政策の中には（動機はよいのだが）、私の強引にそっくりなものがある。あなたの批難も多いに思ひ当る。殊に自分流のシステムの外はうけ入れぬ態度などに、利ちゃんの困つた気持も察しられます。

あなたの私に要求した「理解者」——今は私も本當にわかるように思へます。今まで私はわかりませんでした。事実、あなたの要求を、——自分の仕事まで女房に負担させようと強いる一位にしか思つてゐませんでした。併し事実、私にはあなたの理解者としての素質はなかつたのです。今でこそ多少、其の方向へ頭を向け始めつつある位のところですから。私はあなたの今度の手紙に書いてある通り、あなたの仕事の理解者になるためには、同じ位の水準に達してゐない限り駄目だと思つてゐました。理解してゆかうと云ふ段階を飛び越えて、批判者＝理解者と云ふ、いはば出来上つた存在ばかりを考へてゐたのです。それで自分には其の資格はないと放棄したのです。結局そこでも、あなたの云ふ通りに目的よりも手段の優位性と云ふ事を知りませんでした。

——此の頃のあなたの手紙は——あなたの考へ方は、——実に楽に吸収出来同意出来、さうなくてはならないと思はれる事ばかりですが、以前はさうはゆきませんでしたね。私の気持の持ち方でせうか。理解しよう／＼とする方向、前のは反撥しよう／＼と、無意識に身がまへてゐたのでせうか。両方ともで手段を知つて来たのでせうか。今迄のは、ここまでに至る当然通る道程であつたのでせうか。

もう一つ其の事で考へられる原因は、あなたが大体に於て「押しつけがましい」と私が思つてゐた事もあるでせう。勢

急すぎる。すぐにあなたと同じに立てないとイラ／＼したり怒ったり不機嫌になった。「私のその「結果」への反撥も多いにあづかつてゐたと思へます。あなたの云ふ様に、あなたも手段をよく知らなかつたのでせうね。

前の手紙に書いた様に、私の側の不誠意も原因です。私の不誠意は、物の一面的見方から発してゐます。即ち自分の側だけの観じ方、それ一本槍でまっしぐらに押し進む。其の外のみ方、考へ方をうけ入れる事が出来ないのです。相手の立場、どう云ふ現状から「さう云つてゐる」のか理解しようとしなないので。自分の考へ方、感じ方より他は、相手の利己主義、誤謬としか思へない。更に相手が押し出て来ると、感情的に反撥して『押しつけがましい』と思ふに至つたのです。

もう一つは、あなたがうぬぼれてゐる程の仕事かしら、と云ふ―いはばあなたのうぬぼれ(?)への反感もあつたでせう。結局、私の私の強さ、主観的偏見無理解となつたのです。私が自分を、他の誰よりもまさつた存在だと特別扱ひに、他と差別してゐた事、自分の「内容のないうぬぼれ」を批判した事がなかつた事、考へてみ様とした事が一度もなかつたためです。

今度のあなたとの往復書簡で、此の点、多少は考へられた様に思ひます。自分の内容を吟味したことは、―まだ／＼不徹底ではありませんが、そこへ目をつけざるを得なかつたこと、目をつけた事は、それ自身、私の進歩です。

森井さんで誰だつたでせう。私はよく覚えてゐません。私たちの事をききたい、とは何の事です。何でも一切お話になつてかまひません。結婚の事ですか。森井さんは中島さんと結婚しようとしてゐた人なのですか。高須さん―もどんな人だつたか殆んど忘れました。それ程の強い個性も、一度の会見では印象づけられてゐません。皆、各々、重荷を負つて生きて来たのですね。

あなたは男の友人はあるが女の友人はない。それは私がそれを許さなかつたからでせうが、―今後は女の友人を持つて、いろいろ話合つて見て下さい。あなたは大体、女を知らなすぎるかも知れない。きまつた人以外は。さうすれば私にもすこし寛大になれるかも知れない。或はその逆かも知れないけれど。森井さんとか、高須さんとお友達になる事はいいと思ひます。あの方達も中島さんを失つてから、あの人にまさる友人を持たなかつたのではないでせうか。あなたの仕事も、男の友人だけでなく、彼女たちにも理解して貰ふ事は、―一般の女の人のあなたの仕事に対する理解の程度も知れて、仕事を進めるために役立つ事もあらうと思ひます。

今は私はあなたの手紙を弁解、口うるさいなど、露ほども思ひはしません。だからあなたの事を恨んでなど居りません。

私がわるかった―無知だったから悪い結果を生み出してゐたのだと思つて居ります。あなたの毎度の手紙は、ケン／＼フクヨウしてよんで居り、あなたの信じるところは私も又信じる所となり、あなたの希ふところは私の希ふところとなりました。私からあなたを引いたらゼロの如きものです。と云ふと面白くないかも知れませんが、近き将来に於ては、「謙十幸一」から「謙十幸二」に至り、「謙十幸三」に至り、「謙十幸四 or 五」と云ふところになるでせう。^(たうとう)とう／＼午後一時半になりました。此の手紙を書き始めたのは朝の九時半、間は随分とぎれました。今日も又、来客多し。

お父さんは下痢とジンゾウの腫れ物、肩、うで、ロク骨の辺の痛み等々、一週間に亘り大分弱りました。一寸こしかけると、フラリ／＼みねむり。起きて立つ時はよろめいてゐます。手術も往診も控へてゐます。

八月十六日、まひる。

謙一から幸子あて（一九四四年八月一四〜一九日の記）

八月十四日、月、晴。日中は廿四度、夜の九時でも廿一度。相当暑いと思つてゐるが、皆かはりばんこに二階へ来ては涼しい涼しいと云つて駄弁つて行きます。風通しがいいので、ここへ来る人は例外なしに涼しがる。

昨夜は濃く煮出した（煮出すつもりでなかつたのに）煎茶をのみすぎて夜半の二時か三時まで眠れなくて、しかも今朝はやはり六時だったので、眠い。

ゴリキーの四十年はやはり中々面白い。ジャン・クリヤ魅せられた魂とはつきりちがふ所は、前世紀末のロシアのインテリゲンチヤの少年青年壯年達には、本当に好きなタイプと云ふものが殆どなさうだと云ふことです。すべての人々が歴史の足場を得ないで、しかも歴史の悩みのみは鋭く感受しつつ、彷徨してゐる感じですよ。どの人物も何となく嫌な、好きになれない人物だが、そしてゴリキーはそれらをかかへるものとして描いてゐるが、それにも拘らずゴリキーの、それらの人物への深い愛と理解、それらの人々の苦しみへの愛が、我々を打ちます。あなた若しこの四十年を読むとしたら、警戒が必要です。それは、あなたや僕には、文学作品を、その中に出て来る人物が我々の好きなタイプか否かによつて価値判断する怖れがあるからです。ゴリキーとドストエフスキーとの相違は、根本的には無論、歴史理解の程度の差、リアリズムと似而非リアリズムとの差ですが、外形的に云ふと、ゴリキーは或る人間群（インテリ）の卑小さを

そのものとして描き、その卑小さにも拘らず歴史に何とか足場を得んとしてむなしくあがきいら立ち苦しむ、その苦しみに深い同情をもちつつ、結局さう云ふものを歴史的に克服して行くのですが、ドストエフスキーは、やはり同じ或る人間群（中産的知識層、所謂ラジノツィネットまたはインテリゲンチヤ）のみじめな内面、矛盾に充ちた内面生活を、深く描いてゐるやうだが、実際はその矛盾を現実からはなれた一つの自己完結的世界に於て描き、従つていつか美化し、「人間性の魂の根源にひそむ罪」「内質に宿命的にひそむ人間的悪」と云ふ風な神秘化された表象の中で、宗教的な観念的な肯定にとどまつてゐると云ふ所に、あるのでないでせうか。

八月十六日、晴。（水）

十五日が抜けたのは校正が出て、それにかかり切つたため。本文四百頁の校正は初校だけ終わりました。あと年表が三〇頁あります。全体で四百三十頁。

今朝あなたの十四日付ハガキを受取りました。ココア等御送り下さつたさうで、御親切を感謝します。森井さんがあなたとお友達になりたいと云つて来てゐます。住所を教へておきました。

前便で人物紹介をした白田黒白子と云ふ女の子（森井さんと同じアパート）が微熱があつて肋膜炎の疑ひがあるので、安田さんで診てもらつて今の中休んでなほすやうにすすめたのですが、松本へ疎開するか静養するか出来ると云つてゐるので、若しさうすれば、あなたを訪問させたいなと思つてゐます。「魅せられた魂」に目下夢中ですが、第二巻がないと云つてゐるし、我々の読んで来た本をもつと読ませたいやうな女の子で、甘いけれどすなほだからのびると思ひます。「女一人大地を行く」を読んだらしいが、まだスメドレーの生き方を充意味解出来ない程度の甘さを持ち、彼女自身も僕がさんく、云つた「甘さ」を自認してゐます。だが今までの教養主義的な遊戯的な勉強ではなくて、もつと生活的な真剣な勉強をしたがつてゐます。

昨日伊藤新一君から電話があつて、あなたの近処へ疎開したいやうな意向でした。みつちやんの安産で僕も安心しました。出産日も殆ど予定通りで、本当に合理的なお産だったのですね。島村君のうれしさうな手紙を受け取つて羨むに似た気持ちも覚えました。

夕食後、ナスビを持つて大久保へ行きました。トマトは手に入らなかつたのです。それでも大いに喜んでくれました。叔母さんは内臓が下垂するので腹帯をしめてゐるのださうです。テル子チャン始め三人の子供達が、二時間もかかつて、

紅梅焼のやうなおせんべいを作ってくれました。

八月十七日、晴。(木)

午前中、山陽堂へ本を注文に行きました。お午の買ひ出しはモロコシ(一人十五本づつ)とトマト(一人一貫目づつ)。夕食はカボチャとモロコシ。

僕の今の仕事、独立戦争、現在の南部(ダイヤモンド)。やはりうみの苦しみです。

夕食後、約束によつて早川君を訪問しました。彼は相変らずピチ／＼と云ひたいほど生き生きして楽天的です。考へてみるといい友人達はみんな驚くほど楽天的で朗らかで、しつかりと足を地につけてゐる。之等の人々と話す時は僕もあせりを忘れ、僕も人一倍朗らかで大胆になります。この日曜の夜から数学の勉強を始めます。今日も行つたとたんから「待つてゐる人がゐないのだから、泊つて行きなさい」と云つてゐたのですが、十時頃、帰らうとすると、二人がかりで泊れ泊れとすすめ、では今度、そのつもりで来た時に泊るからと云つて帰つて来たところです。上田君とこでも泊れ泊れ云はれたが、今までこの数年来友人から泊れと云はれたことがなかつたので、ちよつと妙な感じもします。小田急は終電、下北沢十一時四十一分(経堂へは十二時少し前につくのでせう)。早川君とこでは、おいしい肉まんじゅう(鳥肉入り)を三つよばれました。

ここしばらく鳩の便りを受けないけれど(ハガキは別)、元氣なんでせうね。勉強はどうですか。僕の原稿読んでくれましたか。あれは僕自身が歴史の面白さに夢中になつて書いたので、充分整理してゐないから読みにくいかも知れませぬね。僕はまだ素材を充分準備し、消化して書いたことがない。だから自信のあるいいものが出来ないのせう。

お母さん、不二ちゃんの御身体いかがですか。お父さんは御元氣でせうね。では今夜はこれくらいで、「四十年」を読みながら寐ることにしませう。

八月十八日、晴。

お盆は大変だつたのですね。お母様もふうちゃんもあなたも、おつかれだつたでせう。お父様の御健康勝れないのはいけませんね。暑さと時局とのせいもあるのせう。早く御元氣になられるやうに念じます。

手紙が一回届かなかつたのですね。何を書いたか忘れたけれど、届くべきものが届かないのは不快なものです。あなた

の手紙は十五日、十八日と二通、今日の午後届きました。またおひるにはココアとなぶきん届きました。ココアも之くらいあれば充分です。粉がないので、今度手に入るまで使へませんから。米も粉にしてたべたいくらいです。今日はカボチャとモロコシと三食。ナスとキウリ、トマトは三食とも附きます。ナスは支那なべて油やき、キウリは千切りに切つて魚粉と醬油とをふりかけます。ミノは大部分ナスにつけてたべました。マックス・ファランドは、アメリカのアカデミック史学界の元老です。ジョンソンなどと同じ。ファランドの發展史は教科書的なもので、僕の今井さんの米国史と比べて下さると思います。同じ教科書風に、あらゆる事を書いてはゐるのですが。

あなたの勉強の様子をお手紙で見ると、一緒に勉強生活をやりたい熱望に駆られます。二人切りの。そして時々親しい友人が来たり、友人を訪問したりするだけの。だが、もう遅いですね。時局がさう云ふ生活を許してくれない。僕はもう所謂「お召し」を待つてゐるだけであり、……。

八月十九日、晴。

昨夜は余り眠いので、書きかけたまま寐てしまひました。

所が今朝は、すぐペンをとらねばならぬことが起りました。

朝、芦野氏が来て、僕とN君と呼んで雑談してゐる中、N君が法事の家へ数日帰らして下さいと云つたのですが、芦野氏は「それぢや菊池さんと二人で、本を買ひに出張と云ふことにしたらどうだね」と云ひ出して、ほゞ内定しました。

N君の家は大阪なので、京都、大阪、神戸を一週間の予定で出張するわけです。N君の法事は廿五日なので、廿四日に立ちます。で僕も今彼と相談したのですが、実は半ばは彼のすすめもあつて、僕は廿四日に信州へ行く。廿五日朝、あなたと二人で信州を立つて京都か大阪でその夜一泊し、廿六日朝、和歌山へ行く。廿七日一日和歌山ですごして、廿八日朝大阪でN君と待ち合はせ。あなたはあなたの随意にまかせ（一緒にゐても、さきに帰つても、どこかへまわつても）、僕とN君とは一応、京、大阪、神戸の書店をまわり、廿一日に帰京、かう云ふ日程をつくつたのです。

どうですか。至急返事を下さい。日程はあとでどうでもなります。ただ廿四日出発と総日数一週間（欠勤して三日ぐらいのばせるけれど）とだけはほぼ決定。まだ理事会の決定ではないが、月曜の朝、芦野氏が理事会で話す筈です。ではとりあへず。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一日の記、一九日の消印）

教次さんから女ノ子出生、名前は八穂とか、お手紙参りました。時節柄、御祝品もなく、不取敢、五円送りました。適当な品がありましたら、あなたの方からよろしく願ひます。

島村さん、まるでうちよう天のよろこび様、さこそと察しられます。不二ちゃん曰く

早苗の名の時は親の悪趣味の表現と云ひ乍ら、これも又相当の悪趣味ならずや。

案じるより御産も軽くて安心致しました。

もう朝夕、秋のけはひが致します。信州は秋になるのが早いのでせう。

涼しくなつたら毎週一回の割で奥の村々を歩きまはりたい。但し相手が無い。千里塚へ行つたのは九月の終りだつたでせうか。

鼎村はもう秋まつりです。林檎が買へたら送りませう。但し小荷物も郵便も表むきは駄目ですから、ほんの五、六個位でせうね。

八月一日

幸子

謙一様

幸子から謙一あて（一九四四年八月二〇日付け）※

うす青き霧のふる夕

秋風か、腕に冷たし、

やり場なく迷ふ心を

しよざいなく

灯をつけて机によれば、

白々と埃浮くひろげたペーヂ

空々しき活字の行よ、
物見れど、心は由に、
沈みゆく今日の思ひは。

※中身の便箋はちりぢりに破られていたが、それを復元して解説・筆写した。

幸子から謙一あてはがき（一九四四年八月二一日付け）

今日、別便で、魅せられたる魂の二巻を送りました。U嬢（原文）があとをお持ちでなければ、こちらに皆そろつてゐますから、お送りませうか。その他、仰言つて下されば、来てゐるものは何でも送ります。

お父さんはギフ県まで往診手術。二、三日こちらは休診です。お母さんもよくなりました。こちらはまだ秋の風が吹いてゐて、朝夕、スエーターのほしい時もある位です。近日、茨城へゆくかも知れません。決つたらお知らせさせませう。

謙一から幸子あて（一九四四年九月三日の記）

今朝六時二十分、経堂へ帰着。こちらでも電報は一日の昼に届いたが、切符が買へたかどうか、思ふ通りの汽車へ乗れたかどうか、今の旅行ではわからないから、確実に帰るまで留守居を続けるやうにと本室から云はれてゐたさうで、昨夜は一応帰るものとしてジャガをふかして待つてはゐたものの、今朝帰るとむしろ意外に早く帰れてよかつたです。ねと云ふやうな顔をしてゐました。

朝食後はふとんをほしたり、米をすつかりほしたり（大分虫がついた）、あちこち片づけたり。昨夜は満員で、坐ることも睡ることもあきらめたのですが、上諏訪で偶然すぐそばが空いてうまく坐れました。尤も三等車は椅子の具合が悪くて眠れず、おまけに暑いし、まわりの客は汗くさくさぶ佐法（原文）だして、マスクをかけたが、前後三時間も眠つたかしら。汽車の停車した時をすつかり知つてゐるくらいです。にも拘らず、とにかくこの汽車にうまく乗れて、今かうして無事に東京へ帰つてゐることは、僥幸なくらいです。

忙しい旅だったが、近頃に稀な楽しい時間だったので、帰って一人きりになると、子供の頃のやうな孤独感につかれて、原稿も書けず、ひる寐も出来ず、結局あなたへ手紙を書く外ありません。

今度の旅の楽しさは、すべてあなたのおかげです。あなたが始終機嫌よく楽しさうで、くたびれても人混みの不快さや苦しさにも快活を失はず、僕の両親の茅屋でも気がねせず、僕が希望してゐたやうな態度で終始してくれたことが、そして何でも喜んで、物のいい面により多く注意し、すべて好意的であつたこと、しかもそれが自然な風にさうだつたこと、之等が僕にとってこの旅の楽しさの根本要素をなしたのです。旅行自体は、無理な日程のくみ方と云ひ、列車の便の悪さ、食べ物（食）の楽しみの欠除、乱暴な人混みと不案内から来る不安、苦痛、疲労等々、まるで条件は悪かつたのです。あなたと二人でならどんな苦痛や不快にも耐えて行ける自信ができました。それだけに、帰って一人になると、何と云ふさびしさ、空虚さでせう。慾を云へば、もう数日どこか、例へば奈良ホテルのやうな所で過ごせる日時とお金があつたらよかつたでせうね。だがむしろ、こんな危い時期に、この程度にでも愉快（快）で楽しく、豊富で、余りお金もかからず、本もおみやげも一通り買へて、ほぼ予定通りの日程を終はることの出来たのを、幸運と思はねばならない所でせう。それに僕としては、あなたを自分の両親や親戚、妹達に引きあはすと云ふ年来の宿願をも達し、僕の万一の場合の手筈を一通り可能なやうに持ち来らせましたので、望外の喜びともしていいのでせう。

所で一応今度の旅の整理をしておきませう。貴女は時間やその他細々したことには記憶は余り正確でなさうだから、日記につけるのにも利用して下さい。

八月十九日(土)

芦野氏より出張の提言。未決定ながら準備にかかる。

八月二十日(日)

午後アサチャン来訪。夕食後早川君を訪ねる。

八月二十一日(月)

午後本室へ行つたが理事会の決未だなし。サラリーをもらつたあと、庶務課長と経堂分室の留守役と防空当番について

談合。第一の難関。T君が頑迷のため、僕は出張をあきらめる気になる。だが庶務課長もT君説得に骨折ってくれて、どうにかなりさう。午後四時、小此木君訪問。次いでその朝電話で約束した伊藤君を訪問す。帰つたのは十時半。

八月二十二日(火)

朝またT君と一合戦。結局、八木、M両君も余りのことに聞きかねて、T君説得にのり出し、彼を押しだまらせる。午前十時半、本室より理事会の決定の通知。午後三時本室へ行き、日程(二十五日―九月一日)その他を定める。三越でおみやげのお茶を買ひ、銀座で紙芝居を買つて、鷹の巣で夕食。帰ると信州より電話あつたとき。久しぶりにあなたの声をきく。奈良ホテルへ予約手紙。

八月二十三日(水)

午後、原宿で亀屋とセンタクヤとへ寄る。都電で神田伊藤書店へ寄る。本室で旅費二百円を受取り、互助会で五十円借りる(総計借り百五十円)。銀座、多喜山で食事。経堂で明日の切符買はず、予定通り発ち得るか否か疑問になつたところか、出張自体が可能かどうかすら怪まれて、殆ど絶望に近し。第二の難関。ともかく駐在所へ適当な手段なきやをききに行き、やや希望を恢復。夜は殆どテツ夜して原稿を書きあぐ(六十枚)。

八月廿四日(木)

寐たのが四時すぎ、起きたのが六時前。フラクしながら新宿へ切符買ひに行く。ボンヤリして渋谷行き切符を買ひ、新宿駅でゴネられたが、どうにかきりぬけて申告所へ行く。駅長室で頼み、申告所でも頼んだが、今夜の汽車は絶望。明朝立つとすれば、朝、飯や弁当や準備が大変。ボンヤリして三等の切符売場にならび、漸く自分の番になつて注意され、ガツカリしながら二等の所へ並びなほす。だが幸ひ今夜の指定証を得た。之で元気づく。省電で本室へ。芦野氏に昨夜の原稿を渡し、フクシンツケの配給をうけ、神田伊藤書店へ寄る。雨になる。ボウシを買ふ。帰ると四時半。朝つくつておいためし、昼の分と夜の分(少し)と一緒に食べる。小使さんに汽車の中でたべる弁当をつくつてもらふ。その間猛然と準備にかかり、七時まで辛うじて荷造り終る。重い。留守番の鈴木君(会計の人)とA嬢とが荷物をもつてくれて、大汗かきつつ七時半すぎ経堂へ。新宿へついでから荷物をもつたままで行き、千駄ヶ谷の今井先生

のお宅へ原稿を届ける。ゆつくりするひまなくとつて返し、新宿のフォームへついたのは九時半。幸ひ二等車の列は少い。うまく席はとれた。十時(二十二時)四十分発車。夜食をして眠る。昨夜寐てゐないのでぐつすり眠り、

八月二十五日(金)

途中日野春で眼がさめたきり、次に眼があくと早くも上諏訪。五時半、辰野着。飯田線は混んで、飯田まで坐れず。八時半下山村着。君の身体まだ充分ならず、旅行やや不安にも思ふ。この日、予定の校正は余りの眠さに終了を見ず、ダイヤモンドの原稿も書けない。

八月二十六日(土)

四時に起き五時二十分家を出る。雨模様。五時四十五分下山村発。二人とも坐れた。幸子しきりに眠る。僕も眠い。午前十時少し前豊橋着、雨ふる。僕が便所へ行つたため、間一髪で十時〇四分の名古屋行きを逸す。フォームのベンチでにぎりめしをたべる。十一時十一分豊橋発。幸子坐れた。雨があがつて暑くなる。十二時四十五分頃名古屋へつしたが、始めての所でうろくしたのと、幸子の便所行きとで、十三時の「関急」急行を逸す。十三時四十分の急行で名古屋をたつ。辛うじて二人坐る。

三時(十五時)十五分、中川着。のりかへるとやはり超満員。十六時四十五分、八木着。十六時五十九分の京都行きにのりかへ、西大寺にて十七時二十分にのりかへ。十七時半に奈良着。地図をたよりに奈良ホテルへ。サルサワ池にて幸子、車にのる。ホテルはよろし。くぢらの食事の可。但しあとで持参のコツペ一つ平げる必要があつた。入浴して原稿書きかけたが、眠くてうまく行かぬ。早めに床につく。

八月二十七日(日)

朝食にミルク入り純紅茶(無糖)たつぷり二杯、幸子大いに喜ぶ。庭を散歩して後、またコツペをたべる(但し主に僕)。車屋来り、九時少し前、市中見物に出発。曇り日。日曜なれど人少し。鹿ホテル―春日神社―手向山八幡―鹿角屋―若草山―墨屋―二月堂三月堂(東大寺)―大仏殿―興福寺五重の塔。時に十一時半。猿沢池附近の四級宿屋へ荷物をあづけて、小さい支那料理屋の一円定食。本を買つて、もう一度安食事をして、十二時半奈良電車へ。

鶴橋で電車立往生。それがたたつて天王寺で一時二十分の急行を逸す。だが二時の急行に坐れたから満足。三時十分東和歌山着。日さしきびしく、南国調。吉武母堂に「和歌山で言葉の汚いことや」と云はれたその和歌山弁も、幸子は別に気にしないモヨウ。市電にて県庁前まで十五分。そこから数丁で茅屋へ帰りつく。

突然のことで大分驚かせたらしいが、僕も母の齒のぬけた口とやせた身体と背の曲りぐあひとに驚く。だが話して行く内、昔の面かけを復して馴れた。父も思ったより肥つて、機嫌もいい。空腹に早目の夕食。ビールであいさつ。食後夕景を西カチャ町の石垣さんへ。石垣さんも年とつたが、話具合は昔のまま。大変喜んでくれて、帰つた甲斐があつた気がする。ついふらくくとよろず町(魚市)からブラクリ町へ出る。意外なほど人が出てゐる。元寺町の映画館街の賑さ。築地でフカのあらひをたべる。こんなものと思つたのに幸子がおいしがるので満足。京橋からお多賀さん、番丁と歩いて帰る。大分疲れた。二十時半。

八月二十八日(月)

快晴。十時頃、弁当をもつて市電で先づ新和歌浦へ。電車は混む。久しぶりに海を見て郷愁を感じず。人少く、風さやか。暑さもさほど苦にならず。田の浦へまわる岬の突端で食事。魚の天プラに幸子喜び、従つてまた僕も喜ぶ。和船で双子島の方へ出る。一時間で引き上げたが、爽快。新和歌を放れるきわにもう一度料亭に入れば魚すき。新和歌より片男波の堤防を歩いて和歌浦へぬける。人は居ないが風光は昔のまま。明美。少しおそくなつたが、買出しで混む市電のつて紀三井寺へ。子供の時以来来たことがなかつた。午後五時帰る。少し本買ふ。

八月二十九日(火)

晴。早目に仕度。石垣氏来訪。八時、家を出たが、市電来ず。八時四十分の阪和急行を逸す。ややあはてる。N君との連絡絶える怖れあり。九時二十分の急行で十時半天王寺着。幸ひ彼待つてゐてくれた。地下鉄で梅田へ。駅の地下、荒木書店で二百五十円ばかり買ふ。鉄道食堂で雑炊ランチと持参のにぎりめし。省電で一時半三の宮につく。ログスで六百余円、穴門、元町の何とか屋(二百円ばかり)。之で公用の大部分を終つた。

南京街の博愛楼にて夕食。量多し。阪神にて出屋敷へ。昆虫まさに和歌山へ行かうとしてゐた所。夜になつて京子も来る。泊る。蚊多くて閉口。

八月三十日(水)

謙、九時の約束で大阪へ。晶子、京子和歌山へ。幸子、看護婦と留守。謙、九時二十分頃京阪神急発京都へ。(五時)十時半四條大宮着。百万辺（百万邊）でうどんやと飯屋とで腹をつくり、十二時頃京大研究室へ。N君は原教授の下に（同）可候。謙は図書室へ。フレミング以下五冊、借りたいものを発見。

午後三時頃から農学部前の白陽社以下数軒を見、三条へ出て大学書林外数軒を歩く。五時過ぎ、ギオンの一休庵にて普茶料理を食ふ。N氏とは桂で別れる。廿一日の夜行で飯田廻りの計画を立てる。梅田で一時間預けの荷を引出し、出屋敷へ帰れば七時半。今日も原稿書けず。

八月三十一日(木)

暑い晴。切符を看護婦に頼んで十時神戸へ。穴門書店でリヴィウスを買ひ、元町を歩いて一昨日の博愛楼で同じものをたべ、大丸その他で二、三買ひ物をして謙のみは二時、梅田の荒木へ。N氏と会はず。道トン堀へ一人で出て、天牛書店外数軒を見る。午後五時半、出屋敷へかへる。

予定の切符かへず、失望。私鉄を利用する外なし。散歩。晶子、薫、帰る。十一時すぎ寐る。

九月一日(金)

午前三時半起床。四時半家を出る。五時十分の満員電車で、梅田着は六時二十分前。市電で上本町六丁目へついたので六時五分。ムロン、六時の一番を逸す。だが豊橋まで買へて一安心。六時四十分の急行。超満員。眠けれど眠れず、腹空けど食へず、立つてゐることさへ辛うじての有様。中川着は時間表の八時四十分におくれること二、三十分。ホームで名古屋行きを待つ間に、パンの焼米（アヤ）の朝食の立ち食ひ。名古屋行も超満員。時間表の10時38分着は11時20分着とまでおくれる。ムロン10時42分の上りを逸す。駅の地下喫茶室にてにぎりめしをほうばるが時間なく、直ちに列に並ぶ。十二時四分発ののぼりが五分余りおくれた。豊橋着は十三時五十五分。謙は直ちに晶子よりのたくされ物を河合病院へ。幸はその間に危く切符を買へた。だが、またしても間一髪で十四時八分の電車を逸す。逸すること之で八回。間一髪と云ふのが五度。だがそのかはり十六時九分のは悠々と坐れた。八時二十分下山村着。一人で留守居のふじちゃんにお茶づけを（さ）ごちさうになる、そのうまさ。間もなく両親及びあさちゃんなど帰り、二十三時すぎまでみやげばなし。

九月二日(土)

切符買へて最後の難関を切りぬけた。朝立つのをやめて、夜行にする。原稿書けず。幸子はつくろひ物に忙し。十五時半、急に思ひついたやうに父が、辰江行きを發議。時間を危ぶんだが、どうせいそがしい旅の最後までスリリングな忙しさもよからうと、お伴する。木下医院にてオコワと牛肉とナシとをごちさうになり、ナシのおみやげもいただく。おみやげをいただきますに来た形。肝腎の鰐の出たと云ふ所は、二階から望見するにとどむ。切符の売切れを医者の特典で切りぬけた。

帰つてまた牛肉のごちさう。入浴してあはただしく二十時二十九分の電車にのる。飯田から坐つて半分眠りながら、二十二時五十分辰野着。何れも大荷物をかかへたまま陸橋をかけ上りかけ下り、既にフォームについてゐる列車にとびこむ。三等車席なく、あきらめてトランクに腰下す。とにかく之でどうやら東京へ帰れるので、席の文句など感じない。

九月三日(日)

晴。五時五十分新宿着。六時の急行で経堂着。六時二十分帰着。

何と云ふ忙しい旅だったことせう。貴女もきつと疲れたにちがひないから、充分休養して下さい。此の頃機会と云ふものにやや積極的になつてゐるおかげで出来た旅ですね。昔の僕なら考へただけでもいやになつてしまふ。貴女のつかれさへ出なかつたとすれば、文句のない旅だったと思ふ。

では元氣にやつて下さい。僕は之から、旅行よりもつと忙しくなりさう。和歌山と晶子の所とへ、ちよいとハガキでも出しておいて下さい。僕からも出しますが、不二ちゃんにくれぐもよろしく。お父様お母様へはハガキを出します。

謙

幸子から謙一あて(一九四四年九月三日の記)

御ぶじでお帰りの事と思ひます。汽車は混みましたでせうね。お茶がなくて困つたでせう。私たち、あれから、何杯もくお茶を飲みましたから、無困つてゐるに相違ないと思ひました。あれからお父さんは、疎解兒童の發熱とかで鼎の一番端にあるお寺へ往診、お母さんは早々とねましたので、私とふうちゃんと一時まで起きてゐて何かとお喋りしてし

まひ、林ごを一ツ、例の□―リイとか云ふ支那梨を一ツ食べました。果物は手にはいつても、送る事が出来ないのですから、あれは太切に一人でおおがりになるといいです。今後は送れても洗濯物の中に二、三個入れられる位ですもの。今度は本当に思ひがけぬ機会がいい旅行が出来て、本当に嬉しゅうございました。あちらのお父さんやお母さんにも氣樂にお目にかかれるし、話に聞いたり想像してゐたとは全く異つてお父さんはやさしい方で、たいして氣兼ねもいらなかつたし、案外若々しく元氣なのに驚きました。写真のお父さんの方が恐いわね。お母さんはびつくりした程、やつれてゐて痛々しい位でしたね。齒を早くなをす様に、あなたもセッセとおすゝめなさるといい。(尤もあんなにお金をせびりとつては、お母さんも齒科医へ通へないかも知れませんが)。私に返すのは返さなくてもいいから、原稿料がはいつたら、一番先にお母さんに、齒をなすために送つてあげて下さいな。)

京子さんも何て静かで、かわいなおつとりした娘さんでせう。私の家の者の原始的な、むき出しの荒々しい感情の投げ合ひ会話になれた者には、全く和歌山の家ののんびりしたフンキキは、別世界の感がありました。さうしてお母さん、私たち、みつちやんの世界をふり返つて、「荒々しい感情、いきり立つくせ、推量」等の世界―強い自我、自己主張、主観の押しつけなどを再認識せざるを得ませんでした。あなたの始め頃の戸まどひの心持も納得ゆきました。

今日は和歌山と尼ヶ崎へお礼の手紙を書いて出しました。あなたも和歌山のお家へ書く時、私のよろこんでゐる心持をお知らせして置いて下さい。家さへ、もうすこし便利に出来てゐる和歌山の田舎の方へでもお越しなさるなら、一つそ、そちらへ行つて一諸に住みたい位です。さうしたら私の思ひすごしや、むきつけの感情と云つた様なくせも、多少なをる様な心持もする位です。

奈良も和歌山も和歌の浦も本当に楽しい思い出になるでせう。勉強はちようど十日間休みましたが、明日(四日)から又、新に一心に勉強専心にとりかゝります。今のところ、それより他の道は私にはないでせうから。

朝ちやんも疎解の点、一寸困つてゐます。お父さんは誰も彼も危い東京を引きあげて家に帰つて来ることを主眼として、仕事は落ちついてゆつくり探すと云ふ考へですが、お母さんは皆が各々荷物を持ちこんで帰つて来る事がうるさいと云ふ氣持が主で、私は疎解して来いなんて一言も云ひはしない”と云つて、朝ちやんにも来る事をすゝめるより、やめさせたい位のき持で帰る事をせき立ててゐる調子ですから、困つたものです。

家さへあればまづ私が引越して、其処へ皆を一時迎へ、各々仕事が決つたら各々のところへ引越せばよいと思ひますが、仕事は不在で探すと云ふ事は、いくら人手不足の時とところで、あまり確實ではありませんから。稲ちやんがこちら

に帰つて来る事を躊躇してゐるきもちも——ここでのフンイキを嫌つてのためなのとか、あり相な事です。極力、私は家なり部屋なり探す様、人にもたのみ努力して見る心算です。

今から（午後一時半）レコードを少々ききます。暑い盛りに音楽をきくのも中々いいものです。今、皆、ひるねをしてとても静か。私一人、例の如く六丈（五）に立てこもつてゐる始第（本）です。

あなたのあるうちに安全かみそりを一つ、不用の方を貰（五）らほうと思ひ乍ら忘れました。若し不用のがあつたら、おつ（ママ）い手の時に下さいませんか。

あのペンは使ひ心持如何？ 私の今度のは中々よろしいわ。あなたの置いて行つた方は全くすりへつて使ひにくいのね。一諸に買ったんだけど、よくなかつたのね。

では今日はこれでさようなら。九日も一諸にゐて、又別々の生活で一寸淋しいです。一色さんの家と云ふのはすばらしく立派で、きれいな家だ相ですね。あつちやんが、さう云つて居ました。其中、茨城へゆく時、一寸一時間位、寄つて見てもいいかしら。いけなければ寄りませんけれど。

Nさんよろしく。臼田嬢にもよろしく。

九月三日

幸子から謙一あて（一九四四年九月四〜五日の記）

八月四日

今夜の涼しいこと、肌寒い位です。東京世田ヶ谷はどうでせう。蚊はまだ跳梁してゐますか。暫く留守してゐたから忙しいこととせう。芦野さんはスミをよろこばれましたか。炊事は順調に運び出しましたか。

こちらでは——毎日、いまだに旅行談をしてゐます。あんなにあはたしい旅行でしただい話す事はうんとありますが、の。だけど喋つてゐるうち、何時か私の旅行談は、40年前のお母さんの関西旅行談にお株をうばはれて居りますが、——とに角お母さんの気嫌（本）の良いことと云つたら。朝ちやんは三日の夜に立ちました。それでこちらは又、元の人数に戻つて相変らずのチンタイになるのです。涼しくなつた事ですから、お母さんとも衝突せずに（と云つても私はめつた衝突なんかした事はありませんよ）勉強します。



九月五日

今朝は早起して、松尾村まで、しよい籠を背負つて茄子の買出しにゆきました。へトくになつて帰りました。こちらも秋の食料はあやしいものだ相です。

家は山本村ならとてもよいのがある相ですし、引きうけてくれた人は、近藤さんと云ふ山本村の昔の殿さまです。山本村は浪合にゆく時に通つた村で、鼎より文化的だ相ですが、唯交通が不便です。山本村に永住するつもりなら、家も仕事も

責任持つて呉れるとか。朝ちやんは山本にゆきたいらしい。何なら私も山本へ行かうかと思ふけれど。あなたは如何？ 今日、お母さんが和歌山のお父さんあて、お礼の手紙を出しました。敬意を表すとかで、すみで書いてゐました。大根を盗まれた話や、和歌山訛の御両親の会話や、お家のフニキをちよいく話しましたので、お母さんにもあちらの様子が大部わかつて来た様でよろこんでゐます。では今日はこれでさようなら。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年九月四〜六日の記）

九月四日。晴。

残暑きびしく、水は出ず、またまたキリギリス生活に入る。

本室へ行つて一応あいさつをすませ、N君と銀座で、今新と大三広との会食をやりました。大三広は此の頃質が落ちましたが、今新はやはりおいしかった。

竜江のおみやげのナシは、おいしく食べてゐます。鼎のおみやげのササゲで白米を煮て、おこわのやうにして食べると中々おいしく、外におかすがいらぬくらいです。

白田嬢がやつて来て、魅せられた魂の第二巻をもつて行きました。彼女も土曜日までずっと休んでゐたので、此の日始めて出て来たのですが、聖路加で見てもらつた結果、肺浸潤で一ヶ月休むことになりました。森井さんも調子が悪くて寐てゐるさうです。

松沢氏（ダイヤモンド）からの電話があり、原稿に全力をあげねばならない。水は夜半十一時すぎにやつと出はじめた

ので、シャツなど数枚せんたくしました。

九月五日（晴）

御手紙を受取りました。あなたが旅行を喜んでくれるので、僕も実に愉快です。和歌山へはまだ書いてありませんが、御趣旨を伝えておきます。

なほ、あなたはお母さんをいらだたせないやうに注意なさい。お母さんは長い間、家族制度なるものと苦斗（闘）して来たのだが、制度と云ふものは一人で独力で戦ふには余りにも強大で、しかも油断のならないもので、お母さんが弱つた時は逆にその制度の毒素に毒害されて、本来のお母さんのたたかひを癡痺させるのです。戦つたものは逆に戦ひを向けられるものに転化する。あなた方は、お母さんのたたかひを敗（た）えさせないやうに、協力しなければならぬ。その協力の第一の要因は同情と云ふことです。すべての人が今やいら立ち、神経質になり、おこりつぽくあらあらしくなる状態にある時、あなたは自分の理性で自分のその状態を克服するだけでなく、お母さんや不二ちゃん達のその状態とのかかひを援助するやうに。いら立つ神経の間で緩衝し、凡てをたたかふべき本体へ向けるやうにすること。極めて困難だけれど、あなたの今の生活の中で最も誠実に行動せんがためには、さう云ふ生き方しかないので。そのあひ間に自分の勉強をすればよろしい。あせらず、じつくりと。自信を以て。

和歌山は物が無いし、不便だし、文化的刺戟もないし、汚いけれど、よかつたらみかんの頃でも暫く行つて下さい。僕の母は、喜代子でも晶子でも京子でも、みんな朝寐で何もかも母まかせだったから、あなたのやうに早起きして掃除してために働くどびつくりするでせう。だが僕の両親だけなら別にさう働くこともないし、若しあなたが気がむけば、おやちと和歌浦の芋畑へ時に行つてみるのもいいでせう。僕自身はこの二、三年来、自分の両親や石垣さんに、自分の愛情を表出したいと云ふ考へを時々しみじみ感じて来てゐます。僕自身、両親には心配をかけたうし（は）だったし、その両親は今僕について心配しなくても、妹達についていろく心配や苦勞をしてゐるので、それを慰めたいし、石垣さんも二人の息子さんを戦地に出して、孤独にゐるのを慰めてあげたいし。さう云ふ僕の希望の幾分かを、あなたに果してもらふことを考へるのは、僕の身勝手すぎるかも知れないが、若しその気があつて機会があれば、一週間でも十日でも御願ひします。

併しそれよりあさちゃん疎開のことは心配ですね。あさちゃん自身、帰りたい気持になつてゐるのだから、何とか家

か部屋かを見つけて、あなたと共同生活でもする外ありませんね。僕もどうせそちらへ行くのではあり。

肝要なことは、すべての生活が今や過渡的であることを強ひられてゐると云ふこと。しかもその過渡性は、いつまでと云ふ期限がなく、戦局にかかつてゐること。従つて、すべてがいつでも乱暴に中絶させられることを予想しつつ、しかもその過渡性の中でいくらかでも持続的な、また将来の生活への準備になり得るやうな形態をつくり出して行くこと。之等の現実をしっかりと把握せねばなりません。その上で、今のあなたの生活課題は次の如くなるでせう。

(一) 現在のあなたの生活のおかれてゐる人間関係の中で、その過渡性を容認しつつも、しかも最も誠実に、最善に生きて行くこと。具体的には現実のままならなさ、生活の圧迫のためにいら立ち、不機嫌に（心の状態が不幸に）なつてゐる周囲の人々の、その不幸を少しでもやはらげ、近親者の生活感情をなごやかに好意的なものにし、そして時局なり現実なりの重みやとげとげしさに耐えるやうにすること。それらを通じてあなた自身の道徳的完成をも努めること。

(二) 右のやうな周囲の人間関係の整理、融和と、それを通じて自分の道徳的完成、心情の錬成と同時的に、あなた自身の勉強を進めること。僕の伴侶的理解者たることを通じて、歴史一般、世界一般、人間的現実についての認識力を高めること。(一)が個別的生活のありかたについての努力とすれば、(二)は普遍的現実（歴史的時代）に処する生活のありかたについての努力である。

(三) (一)と同時に、他方であさちゃんやいねちゃん、そして僕の疎開を考慮において家をさがし、より一時的でない生活の条件をつくることに努力すること。

(四) あなたの友人達、僕達共通の友人達、それから僕の近親者等との手紙その他を通じてする交通を誠実に、より深くして行くこと。

以上の四つは、すべてあなたの人間的自己完成の努力に統一され、同時にあなたの必然的な生きかた、ありかた、であらうと思ひます。

あなたが茨城へ行く時は、きつと寄つて下さい。土曜日の夕方来れば、一晩とまつて日曜を共にすごせるし、その他の時でも、あさちゃんかいねちゃんので泊めて貰へれば、ゆつくり出来るでせう。平日でも泊つていいと思ふけれど、かう云ふ形態の生活では、公私混淆と云ふことについて、他人のおもはくをも一応考慮せねばならないので。また旅行は脚氣その他がおさまつてからするやうに。一人で旅するのは、余程健康に自信がないと、上野の混雑などに参つてし

まふ怖れがあります。

今日は少し野菜が入ったので、早川君の家へ持って行ってあげたら、林檎を五つくれました。二人とも、奥さんはいかがですかとしきりに云つてゐました。早川君はいつ会つても気持のいい友人です。彼とはもつと深く交通したいと思つてゐます。

九月六日（晴）

今日はズイキが入ったので、キウリ、ナス、インゲンと一緒に、午後、大久保へ持つて行きました。大変喜ばれました。帰りにサトウ80匁（八月份）買ひました。大豆とかへようかと思つたが、やはりやめました。それよりムシパンにつける方がいい。

ゴリキーの「母」を読んでゐます。「四十年」は第二部の初めまで来てゐるのですが、一時中止して、「母」を先きにしたのです。

今日は小使さんにミソ、醤油を買つてもらつたので、夜は雑炊にしました。中味は米、ササゲ、サヤインゲン、ナス、ズイキ、白すぼし、ミソ等で、中々うまく出来ました。そのかはり、舌をやきました。明日も雑炊にします。ズイキのある間は、外の食べ方が面^{めん}付^づですから。

畑中特派員のソ聯記を送ります。全部で六までありますが、少しづつ。之は朝日の八月十八日から二十六日頃まで連載されました。

では、元気に。

謙一

幸子から謙一あて（一九四四年九月六日付け）

三日附のお手紙有難う。きつと私の出した三日附の手紙も、今ごろあなたの手元に届いたことせう。あは^むただしい夏の終りの旅を、あなたもあんなに楽しかつたものとしてよろこんでゐて下さるのを、どんなに嬉しく思つた事せう。若しかしたら旅行中の私を、あなたが不満でなかつたかと云ふ心配がありました。私の方からはいろいろかうもすれば良かったと云ふ様な事が沢山、後になつて考へられましたので。暫く家より他、飯田へすらも行かずとぢこもつてゐた

後ですので、外部に向つて心が働かなくなつてゐるのですもの。

精しい日程、あれは私もあなたの帰京なすつた次の日作りました。あなたの仰言る通り、時間は全く始んど何時に何処と云ふ風に覚えてゐませんでした。和歌山と尼ヶ崎にはあなたへ手紙を出した時、同時に書いて出しました。和歌山の方へはお母さんからも手紙を出しましたから御安心下さい。

暫く振りで十日近くも一諸に暮したので、あとの淋しいこと、―それは既に一諸にゐる中にも考へられた事でした。目をつぶつて見て、今はここに手にふれられる近くにあなたはゐる。だけでもうすこしすれば、目を開いてゐる様とどちてゐる様とあなたはゐはしなくなる。と思つて、時々目をつぶつて手を伸してあなたにさわつて確めて見て安心したり、淋しかつたりしてゐた事を、あなたは御存知なかつたでせう。

月曜から猛勉するつもりだつたのですが、あなたの手紙の来るまでは、どうにも落ちつかないき持で勉強出来ません。何か心を慰めるものはないかと云ふ不まん足のき持で、とうとう小説ばかり読んでしまひました。ルマルクの三人の戦友でも、ローベルトとパトリシアが折角一諸に暮し始めたのに、パトリシアの病氣のため二、三ヶ月でパトリシアはスキスの高原療養所へ行く事になるし、其の間のパットの不安や淋しさ、ロビイの空虚さが身にしみじみとこたへる様でした。パットは次の年にとうとう死んでしまひました。それからサガノヤミムロと云ふ人の野末の菊と云ふのも、障害を越えて一諸になつた一ヶ月の後には、男主人公は自殺して、女主人公のみ残つておぼんの夜、精霊にでもなつて彼が来ればよいと希つてゐるところなど読んでゐると、やり切れない程悲しい気持になりました。

おまけに二日位前の夜、あなたに召集が来て、私の知つた時はもう出発したあとであつた様な夢を見ました。若しも召集でもあつて―戦地へ出発し、そして最悪の場合が来たら、―まつ者があつて、まつてゐるのは淋しくても希望がありますけれど、一番やり切れないのは、まつ者のない事でせう。それを思ふと、とてもたまりません。

尼ヶ崎にゐた暇のあつた二日間、キュリイ伝があつたので、ピエールとマリイの結びつき、それから二人の共同の仕事、ピエールの死、―其の後のマリイの心境をもう一度読んで見様と思つて、さうすれば私にも幾分何か得るところがあるのではないかと思つてよみ始めましたが、ピエールの急死に至らぬ前に時間がなくなつて其のまゝになりました。

こんな事を私があなたに書く事はざんこくな事でせうか。私はいつそ死ぬ者こそ幸福だとすら思へます。若しも最悪の場合が来たら、私はどうなるでせう。外にも沢山さう云ふ人たちはあつたし、これからもあるのですけれど、皆、各々、落ちつくところがあつたのでせうか。私は落ちつけないでせう。若しかしたら苦しさの余り、後を追ふ位の事はし相

す。東大寺のおみくじも善かつたのだし、和歌山ではお多賀様を拝んで来たのですから、そんな事は起らぬと思つて心安めたいのですけれど。外の凡ての事はあきらめがつきますが、其の事丈はあきらめるなんて事は出来相もありません。ギリシヤの神々が今もゐるものならば、香を炊き、いけにえを捧げて祈りたいと思ふ位です。さうして誰か代りに命を捧げる者があるなら代らせてやる、と云つたらきつと代つてあげられます。全能の神々がもう一度復活すればよいと本当に思ひます。

七月にあなたのいらした時は、一諸に生活するの此の短い期間があるひは最後かも知れないと思ひ、もう一度だけ一諸に暮したいと願ひました。それが叶つたのか、結婚後の始めての旅行も出来、あなたの両親にも会ふ機会にも恵まれました。さうしたら又々、九月中にでもあなたが来て呉れる事を望んでゐます。でも今度は留守番の關係でずつと駄目だとのこと、今度こそもう一諸に暮す事が出来ないでせうか。あなたが其処を引き上げる時は、召集のある時の外はないでせうから。でも無理をしても帰つて来て下さいと云つてゐるではありません。どうにも他にし様がないんですのね。あんまりぐちつぽくなりました。

明日からきつと勉強始めますから安心して下さい。私の勉強プランの事も、あなたのゐるとき相談して作りなをしたか（ほ）つたのですが、時間がありませんでした。今のはすこし時間の切り方がよくないし、慾ばりすぎてゐる様です。今夜これからすこし考へて、作りなをして見ませうかしら。毎日お焼の食事ですか。もうトマトもキュウリも茄子も終りでせう。お野菜にまもなく困り出しますね。

下駄一足買ひました。明日お送り致します。配給物で凄くわるい品ですが、お風呂にゆく位なら役に立つでせう。又明晩、お手紙書きませう。

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年九月七日の記、八日の消印）

九月七日

今日は朝からどんより曇つて、時々は激しい雨となります。午後からお母さんのお使ひで飯田にゆきました。愛宕坂の火事の焼跡を見て来ました。（火事は一昨夜十一時ころあつて、軍艦長屋と云ふ汚い長屋が七軒十五世帯やけました。）飯田に出たついで（ト）手に印房に寄つて蔵書印を注文して来ました。つげの木で極く平凡な菊池蔵書と云ふ風に頼みました。

僱段は三円七十五銭、すこし高いと思ふけれど、平凡に作ったものはあきが来ないから、一生涯使へるでせうからいいでせうね。

飯田の町にも鼎にも一下伊那に疎解児童が来ました。早くも病気になる児が相当多く、天竜川で水（浴）して死んだ児、宿屋の三階から落ちて死んだのもゐます。土地の人たちは思つたよりも同情の念深く、食料はとぼしい自分達のを割いても、疎解児童へ持つてゆく様です。上郷の篠田さんはお八ツ用として、ぢやがいもを一かます持つてゆき、あと次々におさつが出来たらおさつ、かぼちゃと持つてゆく相です。各家庭の国民学校の子供も、自分たちのお八ツをへらしても彼等にやつて呉れとたのむとか一母親や女連中は寄るとさわると疎解の子たちの話をして、涙ぐんでゐます。受人側の住居の設備はまるで悪くて、留置場より多少ましな位だ相で、往診に行つて来たお父さんの話では、冬になつたらあの調子では肺炎のまんえんする恐れがあると云つてゐました。疎解児童の親達も随分心配してゐるでせうね。冬になると各戸で三人位づつ引きうける事になり相です。部屋のとにかく都合着く人はいいいけれど、狭い家では困るでせうね。尤も鼎は200人ですから、どの家もと云ふ訳でもないでせうが。

飯田に出た時矢高眼医者へ寄つて、矢高さんの弟さんの家にも寄りました。奥さんがふうちゃん達の友達なので。家は広い庭の片すみにあつて、ひろい縁のついた十畳と八丈（疊）で便所のきれいなことと、東京風のせまいお勝手で、中々いい家でした。私にもあんな風な家があればよいと思ひました。二まあれば、書齋も茶のまもあるんですもの、二人で住むには丁度良いでせう。十丈と八丈なら荷物は置けますから。

朝ちゃんの就職の件で役場の人二人に会つて、ついでに家の事を話したら、鼎村でもない事はない、一戸建と云ふと六ヶしいが、仕切つた家ならぢき見つかるとの事です。でも当分あなたが来ないし、東京を引き上げる時は召集のあつた時なら、私が家を探すのは無駄かも知れませぬね。併し伊藤さんの友達のこともあるし、見つけて置くのは損ではありませぬものね。

家の前の羽生さん一家で本箱や荷物を預つて貰つてゐる家の主人は、六月十五日頃召集されてゆきましたが、今日除隊で帰りました。教育召集と云ふのでせうか。年は卅五、六でせうか。それとも人員過剰だつたのでせうか。あなたも召集あつたとしても、羽生さんの様ならいいですな。さうしてゐるまに戦争が済んでしまへば。

こちらは朝夕涼しすぎて、夜は淋しい位です。それで急いであなたの大きな緋（ねまき用）の袴を解きました。あれで男物のモンペを作らうと思ひます。大きなポケットのついた裏つきを作れば、夜の勉強の時はひざの小田原を心配し